

関連図書の紹介

男女平等推進センター「スクエア・I（あい）」（グリーンホール7階）および相談室（板橋区保健所5階）で貸出している、関連図書を4冊ご紹介いたします。この機会にぜひご一読ください。

「スクエア・I」（グリーンホール7階）



書名 足をどかしてくれませんか。メディアは女たちの声を届けているか

著者 林 香里(編集)

版元 亜紀書房

相談室（板橋区保健所5階）



書名 ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた

著者 一橋大学社会学部
佐藤文香ゼミ生一同

版元 明石書店



書名 男性育休の困難取得を阻む「職場の雰囲気」

著者 齋藤 早苗

版元 青弓社



書名 「テレビは見ない」というけれど エンタメコンテンツをフェミニズム・ジェンダーから読む

著者 青弓社編集部

版元 青弓社

板橋区立男女平等推進センター

No.24

I City

～あいしてい～

特集

無意識の思い込み

（アンコンシャス・バイアス）の解消に向けて

アンコンシャスバイアスとは、自分自身は気づいていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」をいいます。自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の偏見」とも呼ばれます。内閣府が行ったアンコンシャス・バイアスに関する調査研究結果をもとに、無意識の思い込みについて考えてみませんか。



板橋区立男女平等推進センター スクエア・I（あい）

所在地：板橋区栄町 36-1

板橋区立グリーンホール7階

開館時間：9時～20時00分

※令和6年4月1日より21時30分まで

休館日：年末年始、施設点検日など

電話：03-3579-2790



板橋区立男女平等推進センター スクエア・I 相談室

所在地：板橋区板橋 2-66-1 板橋区役所南館6階

※令和6年4月1日より板橋区保健所5階

相談時間：9時～17時 月～金、第二土曜

※総合相談（祝日・年末年始を除く）相談電話：03-3579-2188

板橋区男女平等推進センターは、板橋区男女平等参画基本条例により、「すべての区民が、個人としての尊厳を重んじられ、性別による差別的な取り扱いを受けることなく、個人としての能力を発揮し、ともに住みよいまちをつくる男女平等参画社会の実現」を目指しています。

<I City（あいしてい）に関するお問い合わせ>
板橋区役所男女社会参画課 ☎03-3579-2486

性別役割意識<シーン別>

(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の合計)

■ 男女両方で上位10位に入っている項目

家庭・コミュニティ	
男性 上位5項目 (%)	女性 上位5項目 (%)
男性は仕事をして家計を支えるべきだ	男性は仕事をして家計を支えるべきだ
48.7	44.9
デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い
34.0	27.2
男性は結婚して家庭をもって一人前だ	共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ
30.4	21.6
女性は結婚によって、経済的に安定を得る方が良い	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ
28.6	21.5
共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ	家事・育児は女性がするべきだ
28.4	20.7

職場	
男性 上位5項目 (%)	女性 上位5項目 (%)
育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない
33.8	33.2
組織のリーダーは男性の方が向いている	組織のリーダーは男性の方が向いている
26.1	20.9
受付、接客・対応（お茶だしなど）は女性の仕事だ	大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい
24.1	20.9
大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい	受付、接客・対応（お茶だしなど）は女性の仕事だ
23.1	18.3
仕事で成功していても、結婚をしていない男性は何か足りないと感じる	仕事で成功していても、結婚をしていない男性は何か足りないと感じる
22.9	16.4

【家庭・コミュニティ】では、男女とも5位以内に仕事と家事の分担に関する項目「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先すべきだ」が入っており、2項目とも女性より男性の方が仕事と家事の分担に関して「そう思う傾向」が強い結果となっています。

【職場】では、「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきではない」、「組織のリーダーは男性の方が向いている」が男女とも上位となっています。

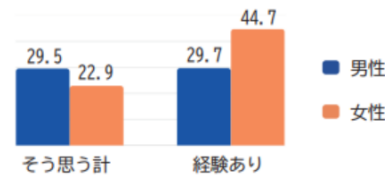
性別役割経験テーマとポイント

～家庭編～

「家事・育児は女性がするべきだ」

【体験談】「子どもが熱を出したらお母さんが看病するよね」という発言が会話に出た。

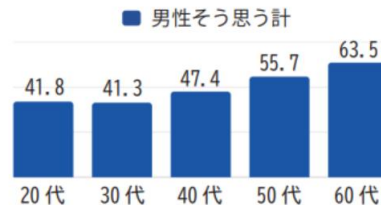
【ポイント】女性の半数近くが「女性がするべきだ」という思い込みを決めつけられた経験がある。配偶者・パートナーから言われることが多い。



「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」

【体験談】上司から「男はいくら稼いでいるかで価値が変わる」と言われた。

【ポイント】男性は年齢が高いほど、「男性は家計を支えるべきだ」と思う傾向があるが、若年男性も4割ほどがそう思っている。

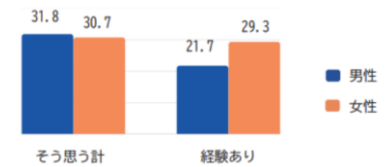


～職場編～

「育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」

【体験談】産休に入るとき、「女性だから子育てを優先してね」と女性の上司に言われた。復帰しにくい雰囲気を感じた。

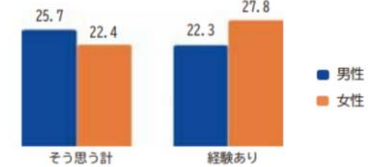
【ポイント】担当すべきでないと、3割の女性自身がそう思っている。



「組織のリーダーは男性の方が向いている」

【体験談】グループの代表を決めるときに、「男性だから引き受けるべき」という意見が多かった。

【ポイント】女性も男性も同程度そう思っている。



アンコンシャス・バイアスの解消に向けて

「女性らしさ」、「男性らしさ」、「こうあるべき」といった無意識の思い込みによる言動や行動により、自分や相手の選択肢を狭めたり、相手を傷つけているかもしれません。まずは、アンコンシャス・バイアスとは何かを知ったうえで、気付くことが大切です。

内閣府男女共同参画局の公式サイトが公開している普及啓発動画や事例集があります。いろいろな事例を見て、自分の考え方の理解を深め、普段の生活の中でアンコンシャス・バイアスについて意識してみましょう。

無意識につくられた固定観念は誰にでもあるという前提に立ち、相手の言動や行動に違和感を覚えたら、自分の考えを相手に伝えるよう心がけてみましょう。

一人でも多くの人アンコンシャス・バイアスに気付き行動することで、社会的・文化的に作られた性差(ジェンダー)にとらわれず、すべての人が自分の望む選択ができ、それが尊重され、活躍できる社会の実現につながります。



調査結果、普及啓発動画はこちら